

安全データシート

作成: 2013年 6月19日

改訂: 2019年 7月22日

1. 製品及び会社情報

製品名 : 理研MCP液剤
会社名 : 株式会社理研グリーン
住所 : 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 8階
担当部門 : 開発部 企画開発課
電話番号 : 03-6802-8587
FAX番号 : 03-6802-8303
緊急連絡先 : 同上
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

2. 危険有害性の分類

最重要危険物有害性及び影響

GHS分類

物理化学性危険性	自己発熱性化学品	: 区分外
	引火性液体	: 区分外
	自然発火性液体	: 区分外
	水反応可燃性化学品	: 区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	: 区分4
	急性毒性(経皮)	: 区分外
	皮膚腐食性/刺激性	: 区分1
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	: 区分1
	皮膚感作性	: 区分外
	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	: 区分1(呼吸器系)
	吸引性呼吸器有害性	: 区分1
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	: 区分外
	水生環境有害性(慢性)	: 区分外

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険

危険有害性情報

- ・飲み込むと有害のおそれ
- ・重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
- ・臓器(呼吸器系)の障害
- ・飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

【予防策】

- ・取り扱いの際には、飲食または喫煙をしないこと。
- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

- ・粉塵またはミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・取り扱い後はよく洗うこと。

【対応】

- ・飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受ける。吐かせてはならない。
- ・暴露した場合、医師の診断を受けること。
- ・吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪い時は、医師の診断を受けること。
- ・眼に入った場合、直ちに清浄な流水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用している容易にはずせる場合ははずし、その後も洗浄を続けること。
- ・気分が悪い時は、医師の診断を受けること。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

【保管】

- ・施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・内容物、容器を法、条例に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名：α-(2-メチル-4-クロルフェノキシ)プロピオン酸カリウム／一般名：MCPPカリウム塩

成分及び含有量	MCPPカリウム塩	50.0%
<その他>	水酸化カリウム	1.0%
	水 等	49.0%

化学式： $C_{10}H_{10}ClKO_3$ ／MCPPカリウム塩
KOH／水酸化カリウム

官報公示整理番号： 化審法 1-369 水酸化カリウム

CAS No. : 1929-86-8 / MCPPカリウム塩
1310-58-3 / 水酸化カリウム

4. 応急措置

目に入った場合：直ちに清浄な流水で十分に洗眼し、医療措置を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染した衣類、靴などは速やかに脱ぎ捨て、製品が付着した部分を水又はぬるま湯十分に洗い流し、石鹼を使って洗浄する。

MCPPの皮膚症状には、ステロイド剤の投与が有効である。

吸入した場合：被災者を直ちに新鮮な空気の場合に移動し、衣服をゆるめて深呼吸させる。多量に吸入した場合は医療処置を受ける。

飲み込んだ場合：被災者を安全な場所に移動し、直ちに医療措置を受ける。口の中に残っているものはめぐったりして除去した後、多量の水や牛乳を与えて吐き出させる。ただし被災者に意識の無い場合はものを与えたり、吐き出させたりしてはならない。

MCPPの中毒症状には、酸素吸入、輸液、ビタミン類・強心剤の投与、鎮静剤、抗けいれん剤の投与が有効である。

5. 火災時の措置

消火方法：初期の火災には、粉末、不活性ガス消火器、乾燥砂などを用いる。大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

消火剤：水、強化液、泡、不活性ガス、ハロゲン化物、消火粉末を放射する消火器

消火活動上の注意：燃焼又は高温により有毒なガス（塩素化合物等）が生成するおそれがあるので、呼吸保護具を着用する。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

6. 漏出時の措置

作業者に対する注意：屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

環境影響に対する注意：飛散、流出した製品が、環境への影響を起こさないように注意する。

流出物の処理に対する注意：少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意：取扱いは換気のよい場所で行い、漏れ、あふれ、飛散がないようにし、みだりに、蒸気を発生させない。皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入らないようにする。

火災・爆発の防止：通常の保管方法で問題無い。

保管上の注意：直射日光が当たらない乾燥した冷暗所に保管し、異種物質の混入を避け、火気、熱源から隔離する。

8. 暴露防止措置

管理濃度：設定されていない。

許容濃度：日本産業衛生学会及びACGIHのいずれも設定されていない。

設備対策：取り扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器を使用する。取り扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための施設を設ける。

保護具 呼吸用保護具：防塵マスク、簡易防塵マスク

保護手袋：ゴム手袋

保護眼鏡：側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型

保護衣：作業着、帽子、保護服（不浸透性）

9. 物理・化学的性質

外観等	: 褐色澄明水溶性液体
臭い	: データなし
pH (100倍希釈液)	: 10(参考値)
融点・凝固点	: データなし
沸点・初留点及び沸騰範囲	: データなし
引火点	: データなし
発火点	: データなし
燃焼性	: データなし
燃焼又は爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
密度・比重	: 1.22(参考値)
溶解度	: データなし
オクタノール／水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の保管環境下で安定

危険有害反応可能性 : データなし
避けるべき条件 : データなし
混触危険物質 : データなし
危険有害な分解生成物 : データなし

1 1. 有害性情報

急性毒性（経口） : ラット(♂ ♀) LD₅₀ 1,476 mg/kg
急性毒性（経皮） : ラット(♂ ♀) LD₅₀ 2,000 mg/kg 以上
急性毒性（吸入：ミスト） : データなし
皮膚腐食性／刺激性 : 皮膚腐食性有り
眼に対する重篤な損傷／刺激性 : 刺激性なし(水酸化カリウムにより区分1とした)
呼吸感受性 : データなし
皮膚感受性 : 感受性なし
生殖細胞変異原性 : データなし
発がん性 : データなし
生殖毒性 : データなし
特定標的臓器／全身毒性（単回暴露） : データなし(水酸化カリウムにより区分1とした)
特定標的臓器／全身毒性（反復暴露） : データなし
吸引性呼吸器有害性 : データなし(水酸化カリウムにより区分1とした)

1 2. 環境影響情報

生態毒性 魚 : (コイ)LC₅₀ 240 mg/l (96時間)
甲殻類 : (オオミジンコ)EC₅₀ 190 mg/l (48時間)
藻類 : EC₅₀ 280 mg/l (72時間)
残留性／分解性 : データなし
生体蓄積性 : データなし
土壤中の移動性 : データなし
その他 : 除草剤であり、植物に影響がある

1 3. 廃棄上の注意

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

1 4. 輸送上の注意

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輛、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

国連分類 : クラス9(有害性物質)
国連番号 : 3082(環境有害物質、液体)

1 5. 適用法令

農薬取締法 : 登録番号 第15339号(理研グリーン登録)
消防法 : 非該当
労働安全衛生法 : 第18条の2(通知対象物質):水酸化カリウム(政令番号316)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) : 非該当
毒物劇物取締法 : 非該当

16. その他

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。

使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

- 引用文献：1) J I S Z 7 2 5 2 : 2 0 0 9 G H Sに基づく化学物質等の分類方法
2) G H S対応ガイドライン 製品安全性データシートの作成指針(改訂2版)
平成20年10月 社団法人 日本化学工業協会
3) 農薬中毒の症状と治療法 第13版 平成22年4月 農薬工業会